

- 続きまして、ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業、WWLと呼んでおりますけれども、こちらの説明をさせていただきます。こちらにおきまして、国内フォーラムの開催と、これに関わる生徒関連プログラムの取組について、御説明させていただきます。
- WWLコンソーシアム構築支援事業では、資料の裏面がございますWWL関係校の生徒が企画・運営する、「平和」をテーマといたしまして探究活動の成果発表ですとか、あるいは国内外の高校生等と意見交流などを行う「高校生国際会議」を、令和3年度7月に開催いたします。
- 令和2年度は、高校生国際会議に向けまして、合同成果発表会を2回行ったのち、3月27日に国内フォーラムを、高校生国際会議の中間地点の位置付けとして開催したいと考えております。
- 国内フォーラムの内容でございますが、県内外のWWL関係校が取り組んできた研究について発表したり、生徒関連プログラムでございます「探究プログラム」の参加生徒が、オンラインでのセッションなどを通じて今まで取り組んできた探究活動について、発表したりする予定です。
- 国内フォーラムに関わる生徒関連プログラムの取組についてでございますが、まずは、国内フォーラム全体を企画・運営するのが、「生徒実行委員会」に参加している生徒となります。
- 生徒たちはオンライン上で協議を重ね、準備を進めております。この活動では、年度当初に全県に導入いたしましたG-Suite、クラウドサービスでございますが、その機能を活用しまして、国内フォーラムですとか、あるいは国際会議の実施方法、それから役割分担などを協議し、他の2つのプログラムの生徒と協議内容を共有しながら、場所とかですね、距離とか時間を飛び越えてオンラインでできているという次第です。
- 次に、「探究プログラム」では、参加した生徒が、オンライン上で多様な他者とセッションを行いまして、「平和」に対する考えを深めたり、個人又はグループでの探究活動をしたりしております。自分たちの探究活動と「平和」が、どのようにつながっているのか、という「問い」と真正面から向き合いながら、生徒主体の学びを深めています。
- そして、「国内フォーラム」等での意見交流会の場をファシリテートするのが、「高度なコミュニケーション」に参加している生徒となります。生徒たちは、オン

ライン上でファシリテーション理論を学びまして、多様な他者との対話を重ねること
とで、コミュニケーション、それからファシリテーションに慣れてきております。

- 当初に比べても、今ではファシリテーターとしての自覚を持ち、自分でディスカ
ッションの構成を考え、主体的に行っております。

- いずれのプログラムも、オンラインの強みを最大限に生かしながら、学校の垣根
を飛び越えて、質の高い学びを実現しております。国内フォーラムに向けて、現在
もセッションを重ねておりますので、この様子もぜひ、取材をいただければと思っ
ております。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、世界的に社会全体が不安の中で
生活しております。こういった状況だからこそ、高校生たちが今の状況を考えた時
に「平和」なのかということについて、改めて深く考えることが大切だと考えてお
ります。3月の国内フォーラムが、7月に開催されます高校生国際会議に向けた大
きな第一歩となりますことを期待しております。

- WWL国内フォーラムについての説明は、以上となります。